

## ②水戸口の田の神（梶山地区）



- ・所在地 大字長田字水戸口
- ・型式 農民座像型（風化が激しい）
- ・像高 54センチ
- ・被り物 シキ（風化が激しく現状はシキを被っているとは言い難い）
- ・持ち物 不明
- ・建立年代 不明（『みまたの石造文化』によると江戸末期）
- ・備考 この田の神は、梶山地区新地馬場の薬師堂の西側にあります。三股町教育委員会発行の『田の神』（小冊子、発行年不明）によると、この田の神は、昭和20年（1945）の終戦の頃までは田植えの時それぞれの家から赤飯等を供えていたとあります。また、梶山地区の耕地整理後に個人宅の水田のあぜに移したとあり、前掲冊子『田の神』に掲載されている写真を見ると確かに水田のあぜに田の神が座っています。ただ、それ以前にどこにあったかまでは言及していません。また、いつ現在地に移ったのかも不明です。地元でご存知の方がいらっしゃったらご教示ください。また、おもしろい逸話として、「この田の神はイボ神でも知られ、その頭でイボの患部をこすると治るといわれている」とあります。